

山陽新聞社長賞

カブトムシが きた！

笠岡市立中央小学校

一年生 湯本晴也

三月五日、とつぜん カブトムシの よう虫を 三びき もらった。びっくりしながら、うれしい 気もちと ふあんな気もちが はんぶんずつ 出て きた。うれしい 気もちは きよ年 さなぎで しんだ カブトムシの かわりに またそだてられる という 気もち。ふあんな 気もちは またと中で、しんだら どうしようという 気もち。

よう虫は もぐもぐ 土を たべて ぐんぐん 大きくなった。まい日 三びきの うごきを かんさつしていると、かあちゃんが、

「名まえでも つけているの。」

ときいた。しらない うちに ぼくの くちが かつ手に、

「さっちゃんど みっちゃんど よっちゃん。」

と こたえていた。オスカ メスカも わからなかったけれど、どの 名まえでも 大じょうぶかな。三びきが いつ、せい虫に なって 土から 出て くるのか まちどおしかった。よう虫が 土の 上に 出て きたり、虫かごに カビが はえて いそいで 土を かえたり して、ドキドキ しながら すごした。五月に なると、土の 中は しいんと して、みっちゃんも さっちゃんも よっちゃんも そとからは ぜんぜん 見えなく なった。きつと さなぎに なって いて もうすぐ せい虫に なって あえると しんじて まった。六月二十九日の タがた、土の 上に くらい かたまりを見つけた。カブトムシの メスだった。きつと さっちゃんだ。とうとう あえて すぐく うれしかった。そのあと、二日おきに オスと メスが 出てきた。よっちゃんど みっちゃん。せい虫の かごに うつして、よっちゃんは ゼリーを がつが つ たべて、メスの ニひきは すこしずつ たべていた。三びきの あしの トゲは ちくちくして いたかったけど まい日 さわって いっしょに あそんだ。よっちゃんの 空に つきだした つのは かつこよすぎた。ぼくは この な

つ、三びきと すごして とても たのしかった。

ざんねんなことに せい虫が しんで いなく なった 虫かごには、よう虫も たまごも いなぎそうだった。たまごから ずっと そだてて みたいと いう ぼくの ゆめは だめだった みたい。

八月十六日、とうちゃんが、きゆうに、

「はるくん、おいでおいで。」

と、ぼくを よんだ。よう虫を そだてていた 虫かごに 白い ものが いくつか 見えた。さいしよは カナブンの よう虫が まじっていたかと おもったけれど ちがった。ほんとうに びっくり。十一びきの カブトムシの よう虫が、ほうって おいた 土の 中で そだっていた。ぼくは 気づいたら、『ダーウィンがきた』の きよく、

「いくつもの きせきがあ、つながり ここに いるう。」

を、 大ごえで うたっていた。みっちゃんと さっちゃんと よっちゃんから、また あたらしい いのちが うまれた ことが うれしかった。らいねんの なつに、よう虫たちが せい虫に なるのを ずっと たのしみに している。